

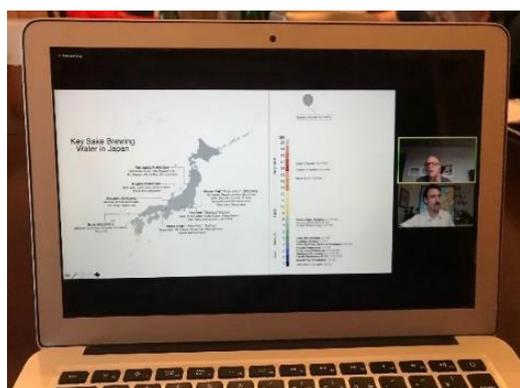
【伊藤総領事メッセージ 2020年6月】

オンタリオ州における新型コロナウイルスの感染状況もようやく改善の方向が継続して見られるようになり、トロントをはじめ州内のほとんどの地域が経済再開の第2ステージへと移行しました。これまで3か月以上も緊急事態宣言が続き、感染防止のために控えていた行動が少しずつできるようになり、明るい夏の日差しの到来とともに心が晴れやかに思える機会が増えたように思います。美容院や理容院で髪の手入れができるようになる、あるいはパティオのあるレストランで食事ができるようになることなどを楽しみにされている方々も多いと思います。当地の日系企業も多くが活動を再開されているようです。

しかし、感染者が少なくなったとはいえ、新型コロナウイルスが消滅したわけでも、治療薬やワクチンが完成したわけでもありません。6月7日から13日までの一週間にトロント地域の新規感染者は10万人あたりで約20名、ピール地域でも約15名であり、日本の緊急事態宣言の解除基準であった10万人あたり0.5人と比較すると30~40倍も多いことになります。また、経済社会活動が再開されて人出が多くなることに伴い、再び感染者が増加する可能性も危惧されます。7月2日からはトロントのTTCやミシサガ市、ブランプトン市等での公共交通機関を利用する際にはマスク着用が義務づけられますが、公共交通機関に限らず、2メートルの対人間隔が確保できない場所ではマスクを着用し、3密(密集、密接、密閉)を避け、頻繁な手洗い等を心がけていただくようお願いします。

こうした中、6月18日にはオンタリオ日本酒組合(SIO)主催による日本酒紹介事業である「スピリット・オブ・カンパイ」がオンラインで実施されました。本来であれば、日本の酒蔵からの参加者も得て、日本酒の試飲、日本酒につ

いてのセミナーの開催、日本酒と日本食での夕食などを賑やかにおこなう「カンパイ・トロント」が開催される予定でしたが、新型コロナウイルスのためにオンラインでの開催となったものです。トロント在住の酒サムライであるマイケル・トランブレー氏による「日本酒のテロワール」についての講義、トロントで日本



酒好きに有名なバーのオーナーとトランブレ氏による6本の日本酒の試飲に際してのコメント、さらに日本から5軒およびトロントから1軒参加していただいた日本酒醸造者の皆様のビデオメッセージなど、非常に充実した内容だったと思います。特に、日本から参加された酒蔵の代表の方々のトロントに対する期待とお酒にかける熱意、そして英語でのコミュニケーションを苦にせず訴えかけてくる迫力には感動しました。オンラインの場合、実際に醸造者の方と一対一でいろいろな話をしながら知識を深めるという「時間の贅沢」はなく、一つの醸造元が作る複数の日本酒を少量ずつ試飲させていただく（結果として、数多くの種類の試飲ができる）という「好奇心の発揮」はできませんが、その代わりに自宅でリラックスして、家族と一緒に日本酒を楽しみ、学ぶことができました。日本酒文化をカナダに広めるためのモメンタムを失わないようにしようと多大な努力をしてこのオンライン 행사를可能にしてくれたSIOの方々に深く感謝したいと思います。



昨年5月にトロント市で開催された北米最大のテック関連国際会議「コリジョン」も、今年オンラインでの開催となりました。オンライン上の参加者数は、

3万2000名を超え、政治・経済・文化・メディア等の分野の著名人が一コマ10分～20分程度で次々と現れます。大きな会場内を物理的に行ったり来たりする必要もなく、指先でチャンネルを替えるだけで次のイベントを視聴することができ、人気の高いスピーカーのトークを聞くために満席の会場の片隅に潜り込んで立つ必要もなくなりました。関心のあるビジネス参加者とのオンラインでの会合のアレンジも可能であり、食事やトイレで列を作ることもなくなり、



好きな場所で好きな昼食をとりながら参加できます。日本とは13時間の時差があるものの、オンライン実施による旅費・滞在費・移動時間の減少もあり、日本からの参加者も昨年よりかなり増えたとのこと。

在宅勤務やオンラインでの会議、さらにはオンライン飲み会など、新型コロナウイルス感染防止の下で急速に普及した新たな生活様式の一つといえましょう。私自身も、オンラインによるマーカム市のタウン・ミーティングに参加したり、

グレン・グールド氏と日本に関してウェブサイトに掲載したりと、今までになかった体験をすることができました。オンライン上での情報収集もかつてないほど活発になっているようです。オンラインの環境は、数々の利便性がある一方、多くの参加者がいる場合の参加者同士の横のつながりや「雑談」が難しいこと、現場の迫力や味わいなどがオンラインでは共有できないなどの

課題もあります。また、情報セキュリティについても常に注意を払う必要があります。さらに、自宅にこもってしまうことから生じるメンタル・ヘルスの問題や、家庭内暴力の問題も生じています。在留邦人の方でこのような問題でお困りの方は、Japanese Social Services (<https://jss.ca/>) までご相談ください。

現在、当総領事館では、7月7日の七夕に向け、オンラインで皆様からの願い事を募集しています。お知らせいただいた願い事を当館スタッフが短冊に書きおろし、笹につるし、その様子を当館のフェイスブック及びツイッター上で随時紹介させていただきますので、ふるって御参加ください。私の願い事は、「一日も早くカナダの人々が日本を訪問し、日本の良さを直接に体験できますように」です。



寄稿「Proactive Social Distancing by Artists Glenn Gould and Natsume Soseki」は、[こちら](#)をクリック。



願い事は、event@to.mofa.go.jp までお送りください。
総領事館のバーチャル七夕まつりを見るには、[フェイスブック](#)または[ツイッター](#)をご覧ください。

フェイスブック <https://www.facebook.com/JapanConsToronto>
ツイッター <https://twitter.com/CGjapanTO>